

日刊 動労千葉

87. 7. 9
No. 2597

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二七二〇七

動労の解散決定弾効

臨時委員会で闘う方針確立へ(1) 動労総連合を飛躍的に拡大し 動労革マル―鉄道労連解体へ

☆☆☆☆☆☆☆☆
七月七日、八日『動労』は、第四四回全国大会を開き解散を決定した。動労革マル松崎による『動労』の私物化―解散を絶対に許すことはできない。動労千葉は、七月十八日に第十七回臨時委員会を開催し、動労革マル打倒、動労総連合の強化拡大、出向攻撃への反撃、事業部運動の発展など、これからの当面する闘う方針を決定する。臨時委員会に結集し、闘う方針をすべての組合員で確立しよう。
☆☆☆☆☆☆☆☆

動労千葉の存在が 動労革マルの矛盾を拡大

今回の第十七回臨時委員会は極めて重要な委員会である。とりわけ動労革マル打倒の闘いは決定的である。

動労革マルは、自らのセクト的延命のために「分割・民営化」に率先協力し、闘う国鉄労働者に対してはその背後から襲いかかり、さらに労働者の「クビ切り」を当局に要求するという全く許すことのできないファシスト集団である。

しかし、この動労革マルも、国労や動労千葉―動労総連合が不屈に闘い続け「4・1」を木端微塵に粉碎し、意気高く闘いぬいているということに完全に恐怖し、その内部からの矛盾が噴き出してきている。鉄労の分裂などはその最たるものであり、鉄道労連結成時からの矛盾が一気に噴出したものなのだ。

矛盾はさらに拡大する

だが、動労革マルの抱えた矛盾はこれでおさまるものではない。なぜなら、この矛盾の本質こそ「松崎は革マルだ」というところから発生しているからだ。そうである以上動労革マルは、さらにファ

シスト的延命をかけて国労や動労千葉―動労総連合に攻撃をしかけてくる以外にないのである。絶対に粉碎しなければならない。

また、七月七日、八日の両日開かれた動労第四四回全国大会で松崎は「一企業一組合を目指し『動労』を解散する」と、これまで動労組合員が血と汗を流して築きあげてきた『動労』の歴史を動労革マルの延命のためだけに解体することを決定したのだ。絶対に認めるわけにはいかない。

このことは逆に、動労西日本の決起に続き、『動労』内からの決起をかちとる情勢がいよいよ煮つまつてきたということともいえるのだ。

闘う方針が情勢を動かす

このように『動労』をめぐる闘いが極めて重要になつてきている現在、動労千葉の果たす役割は決定的である。臨時委員会での闘う方針の確立こそ全情勢を動かす原動力になろうとしているのだ。

臨時委員会へ全力で結集し、闘う方針を確立し、動労革マル―鉄道労連を解体・一掃しよう。

このチャンスを生かし動労総連合を飛躍的に発展させよう！